

【RIMS 合宿型セミナー】

① 代 表 者	所属： 北海道大学大学院理学研究院	副 代 表 者	
	職名： 准教授		
	氏名： 松下大介		
② 題 目：正則シンプレクティック多様体の具体的な描像 (英 文 名 : On explicit description of holomorphic symplectic varieties)			
③ 実施期間： 平成 28 年 8 月 19 日～平成 28 年 9 月 1 日(4 日間)			
④ 参加者数： 15 名 (内、外国人 7 名)			
⑤ 講演数： 14 コマ (内、英語で行なわれたもの 14 コマ)			
⑥ 合宿型セミナーの概要 (開催目的、成果など)： 大沼国際セミナーハウスを会場にし、4 日間、計 14 コマの講演を設けた。研究集会中に台風が函館を直撃し、停電や JR が不通になるというアクシデントはあったが、集会自体は滞りなく終わることが出来た。A. 既訳シンプレクティック多様体に関しては以下のような成果が報告された。1) 幾つかの位相的な量を固定すれば、ある自然数 m があり、既約シンプレクティック多様体上の semiample な因子 L に対して、線形系 $ mL $ はファイブレーションを定める。2) O'Grady の六次元の例は $\text{Hilb}^3(K3)$ の有限群による商の特異点解消によって得られる。3) $\text{Hilb}^n(K3)$ の non-symplectic な作用による商の特異点解消を取ることにより興味深い Calabi-Yau 多様体を得られる。B. 特異点を許したシンプレクティック多様体については以下のような成果が報告された。4) 商特異点のみを持つ V-シンプレクティック多様体の幾つかの例が紹介された。5) リー代数への随伴表現から定まる特異点の具体的な特異点解消の構成が紹介された。 尚、研究集会中にこのような催しを続けて 2017 年 9 月にまた開催することが決定された。			
研 究 成 果 の 公 表 方 法	⑦ 講究録を <input type="checkbox"/> 発行する <input type="checkbox"/> 発行しない ※発行する場合：原稿完成予定時期 平成 年 月 日頃		
	⑧ 講究録以外の方法で報告集を発行する場合： タイトル： 出版社： 出版予定時期：平成 年 月 日頃		
	⑨ 専門誌等による場合： 主要な論文リスト (掲載予定、プレプリントを含む。準備中も可) <ul style="list-style-type: none"> • Lie Fu, Zhiyu Tian and Charles Vial. <i>Motivic HyperKähler Resolution Conjecture for generalized Kummer varieties</i>, 2016; arXiv:1608.04968. • Simon Kapfer and Grgoire Menet. <i>Integral cohomology of the Generalized Kummer fourfold</i>, 2016; arXiv:1607.03431. • Chiara Camere, Alice Garbagnati and Giovanni Mongardi. <i>Calabi-Yau quotients of hyperkähler four-folds</i>, 2016; arXiv:1607.02416. • Ryo Yamagishi. <i>Crepan resolutions of a Slodowy slice in a nilpotent orbit closure in $\mathfrak{sl}_N(\mathbb{C})$</i>, 2014, Publ. Res. Inst. Math. Sci. 51 (2015), no. 3, 465-488; arXiv:1407.3139. 		

On explicit description of holomorphic symplectic varieties

Venue Onuma International Seminar House.

Period 2016 Aug 29 (Mon.) — Sep. 01 (Thu.)

Timetable

	Aug 29 (Mon.)	Aug 30 (Tu.)	Aug. 31 (Wed.)	Sep. 01 (Thu.)
9:00—10:30	D. Matsushita	R. Yamagishi	K. Yoshioka	M. Lehn
11:00—12:30	G. Menet	G. Mongardi	N. Addington	Y. Namikawa
14:00—15:30	L. Fu	C. Camere	D. Piyaratne	
16:00—17:30	Y. Nagai	C. Lehn	H. Ohashi	